

仙台・文化財サポーター会活動記録（保存継承部会）

活動記録（保存継承部会）

○12月19日(金)

『愛子の歴史を訪ねる』

・13時集合～15時解散

・参加者 18名

七十七銀行本店前に集合

落合市民センターで、案内人の「落合・栗生地区歴史めぐり運営委員会」の鈴木さん、伊藤さんと合流。

○愛子宿について

愛子宿は、江戸時代に陸奥国宮城郡に置かれた宿場で、仙台藩が設定した西道の宿駅の一つ。江戸時代前まで、現在の仙台から山形（最上）に向かう街道は、笹谷街道と二口街道の他に青葉山丘陵を越えて蕃山丘陵の北麓に沿って蛇行し、南より山道に分け入る最上古街道があった。

江戸時代になり仙台藩は、仙台城がある青葉山を通さず、八幡町、権現森、落合を通り広瀬川の南側沿いに道を開き、愛子盆地をほぼ直線で東西に突っ切る街道を設定した。西道と呼ばれたこの街道に設けられたのが、愛子宿である。（西道には他に、熊ヶ根宿と作並宿も設けられた）

愛子宿は、中世の町を継承したものではなく、宿駅機能のために近在から移転させて作った町と考えられている。上愛子村と下愛子村の境界にまたがり作られた。東西に延びる道の両側に家が30軒ほど並ぶ町であった。

西道は作られたが、急勾配で陰しく狭い道で兵馬の移動も困難な道であり、仙台と最上を結ぶ物流の主要道は笹谷街道であった。

下記愛子宿マップの①～⑨を巡見しました。



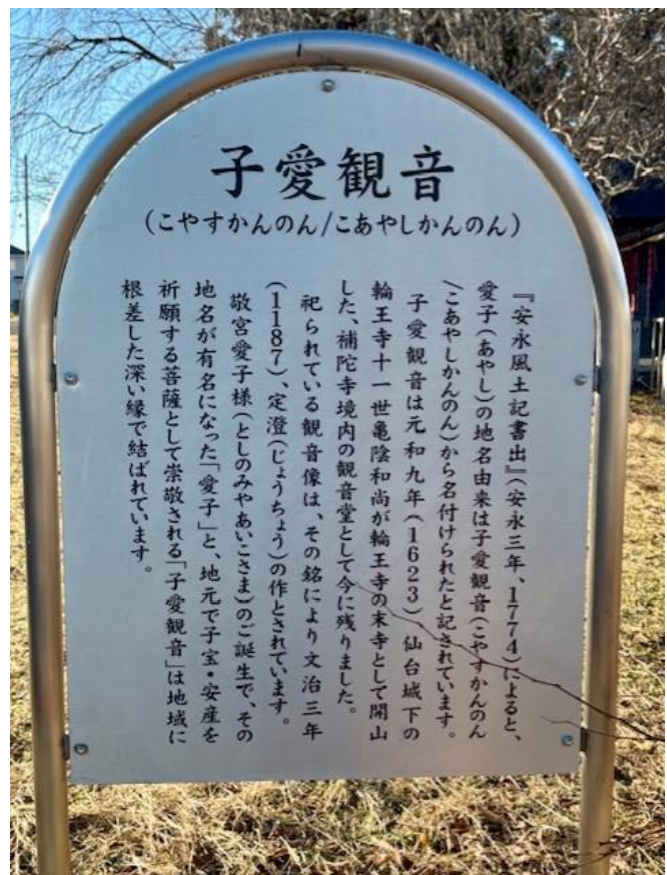
- ①愛子宿東口（月橋跡）
- ②子愛観音堂
- ③広瀬村役場跡
- ④肝入・検断屋敷跡
- ⑤デンゴ茶屋跡
- ⑥愛子のかんざし桜
- ⑦愛子のしだれ桜
- ⑧愛子宿西口（延命地藏尊）
- ⑨津島祇園社（天王社）

それぞれの場所には標柱が立てられていて、スマホでQRコードを読み取ると詳しい解説が見られます。

巡見した中から子愛観音、延命地蔵、津島祇園社（天王社）について紹介します。

○子愛観音（こやすかんのん）

- ・愛子の地名の由来
- ・元和九年（1623）輪王寺十一世陰和尚により輪王寺の末寺として補陀寺が開山し境内の観音堂として今に残る。
- ・安永風土記（1774）によると祀られている観音像は木仏坐像、御丈 15.4cm、台座 11cm、高さ 19cm、文治三年（1187）、定澄（じょうちょう）の作とされています。後光の後ろに「子愛観音」として記されています。
- ・子愛観音の大祭は八月十日で、毎月十七日が例祭。



○延命地蔵

- ・関山街道には愛子・熊ヶ根・作並の三宿がありその中でも愛子宿がもっとも規模が大きかった。
- ・この西口に延命地蔵尊を建立し愛子宿の関山街道を往来する人々の健康と道中安全と長寿を見守っています。
- ・延命地蔵は伊達吉村公の時代、正徳三年（1713）に建立されました。



2. 愛子宿西口(延命地蔵尊)

慶長年代、伊達政宗が街道整備を行なった際に山形へと続く作並街道には、「愛子」「熊ヶ根」「作並」の三宿駅が置かれました。

愛子宿は、ここ西口から東口までの約740mの間に33軒の街並みがあり次の「熊ヶ根宿」までは約2里(約8キロ)離れていました。

この場所には延命地蔵尊が置かれ、現在も地元の人々から健康と長寿の守り神として大事にされています。地蔵尊の台座の下部には「正徳3年(1713年)3月3日」と記されています。

- ・ 詳細な説明
- ・ Detailed explanation
- ・ 자세한 설명
- ・ 详细的解释



平成30年度文化庁文化芸術振興費補助金
(文化遺産総合活用推進事業)

○愛子津島祇園神社

（愛子の天王さん）

- ・天保の飢饉（1830年代）の頃、子供たちを含む多くの人々が飢えと疫病で犠牲になった。
- ・明治十六年（1883）疫病から守る神様を祀ろうと有志三名がお伊勢参りをし、尾張国（愛知県津島市）の津島祇園神社に祀られている「牛頭天王」（ござてんのう）の御霊を分祀（ぶんし）していただき愛子津島祇園神社を建立した。
- ・愛子ではキュウリが採れるとまず牛頭天王さんにキュウリを供え、お参りしてからでないと食べられない。また数軒の家ではキュウリを栽培しないという風習があるそうです。



○「国分一宮諏訪神社」にも巡見する予定でしたが時間の関係で今回は見送りました。
こういう景色が迎えてくれます。



○今回も「落合・栗生地区歴史めぐり運営委員会」の鈴木さん、伊藤さんに案内をしていただき愛子の歴史・愛子宿について深く知ることができました。

○おわりに

今年最後となる例会は好天に恵まれ、青空の下、とても気持ちよく締めくくることができました。

かんざし桜やしだれ桜など愛子には桜の名所がたくさんありますので、桜が咲く季節にまたぜひ訪れてみたいところですね。

今年一年、みなさんお疲れさまでした。

以上 本多正明（記）